

---

# 独りは楽かもしれない

夢月 那由紀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

独りは楽かもしれない

### 【Nコード】

N2758K

### 【作者名】

夢月 那由紀

### 【あらすじ】

最近ハマってしまったゲーム。面白い話のはずなのに、ほんの少しだけ、私の胸に引っ掛かる内容の話があった。それが私のくだらない感情を呼び起こす。

**(前書き)**

ただ書き綴っただけなので、グダグダに近いかもしれないです。

最近、ゲームをやっている、思い出したことがある。

独りでいることの楽しさ、だった。

私は一時期、友達を拒絶してきたことがある。それは、友達に裏切られてしまうのが恐ろしかったから。今思えば、ただの被害妄想だったのかもしれない。でも、怖かった。

そしてまた、思い出した。

あのときは、楽しいと思っではいけないと思っていた。楽しいと思っでは、それがなくなるとき、辛くなる。

楽しいと思っていたのに、裏切られてはどん底に落ちてしまう。それが怖かった。

私は自分の性格が悪いって分かっているから、仲の良い振りをしている人が周りに……すぐ近くにでもいるんじゃないか、って思っで拒絶した。

そのことについて、友達は「今まで通りに接したい」と言ってくれたから、私は馬鹿な考えをしたな、と改めた。

だけど最近やったゲームで、前の私に似た考えを持っている話があった。その話を見ていくと、また、怖くなる。

卒業を控えたこの土壇場な時期に、だ。この時期には卒業アルバムが配られて、皆が交換し合っでメッセージを書いていくのに……。メッセージを書きあう時間を与えられたときは、自分から誰かのところに行こうなんて考えもしなかった。いつも一緒にいる友達にすら、「書いて」と言えない。

思い出して、怖くて、動けない。また、あの感情が蘇ってくる。くだらない私の心の闇。周りの真情が知れたらどんなにいいだろう、と何度も思った。

捨てられると分かっているなら、初めから慣れあうことなんてしなかった。

仮初めの関係だと知っているならば、信じるようなことはしなかった。

でも私は友達ならば信じているし、裏切らないと思っている。それでも、不安で怖くて堪らなくなるのは何故だろう。もしかしたら、私はまだ心のどこかで、友達を信じていないのだろうか？ だとすれば、私は最低な人間だ。全く、嫌になる。

メッセージを書き合うとき、私は「面倒だから」と友達には言った。でも本当はそうじゃない。大切な友達に「書いて」と言われれば書くし、「書かせて」と言われれば書いてもらう。でも、やっぱり「書いて」とは言いにくい。

面倒な訳はない。ただ、怖いだけだ。迷惑なんじゃないか、ってただ思っていただけだ。ただこんなこと、友達に言える訳がなく、私の性格上、上手く言葉が言える訳でもない。だから「面倒だから」と言った。いい言葉だなんて、微塵も思っていない。むしろ不快な言葉だって知ってる。

今は、堪らなく不安だ。そして自分が腹立たしい。だけど、どうしていいかも分からない。誰も答えは知らないし。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2758k/>

---

独りは楽かもしれない

2010年10月14日18時49分発行